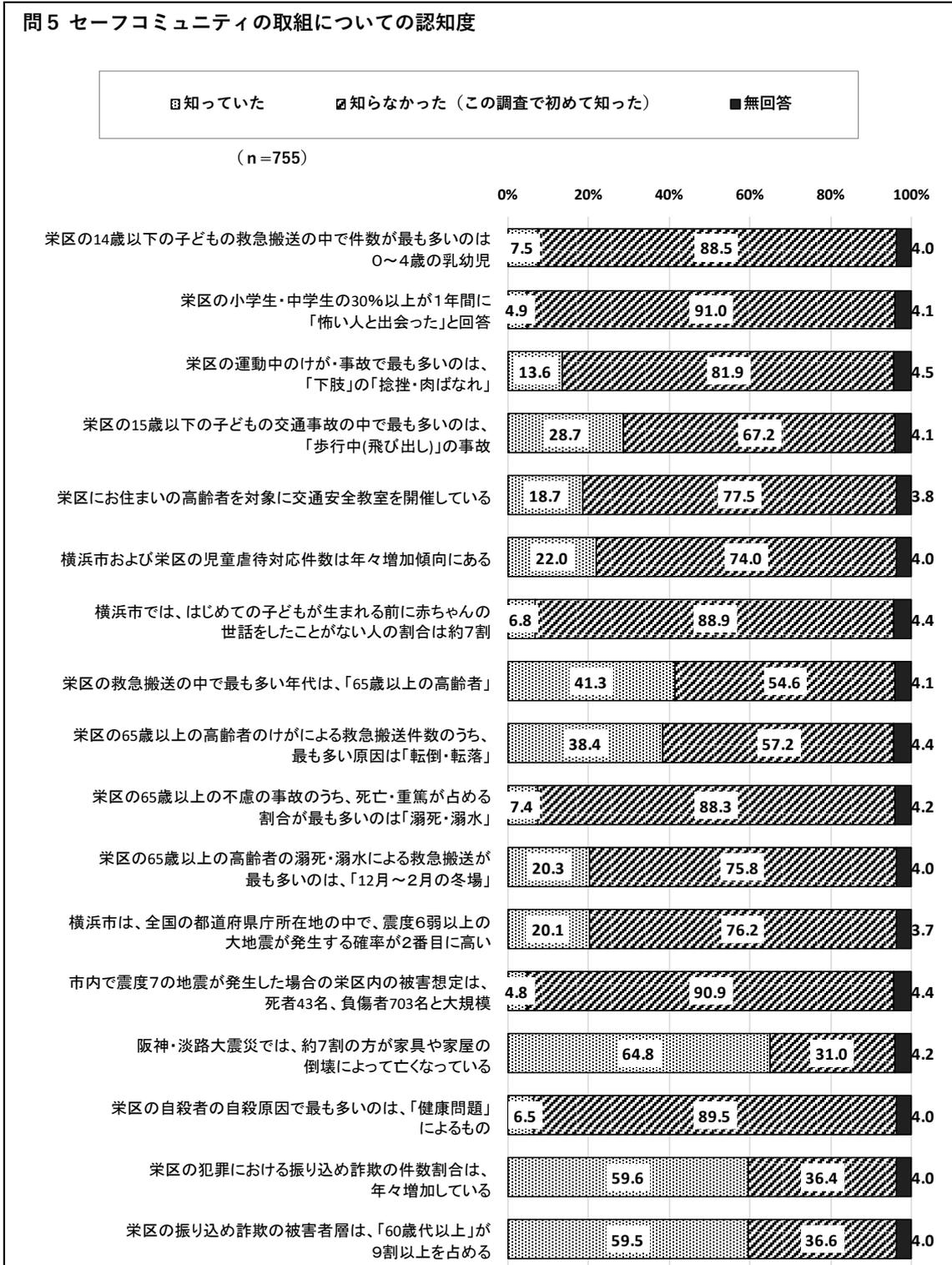


2 日常生活におけるけが・事故の危険性

(5) けが・事故の危険性の認知度

<全体>

・けが・事故の危険性について、阪神・淡路大震災では約7割の方が家具や家屋の倒壊でなくなっていることと振り込め詐欺に関する2問は「知っていた」方が6割前後と高い割合になった。その一方、「知らなかった」方が多いのは、栄区の小中学生の30%以上が1年間に「怖い人と出会った」と回答していることと、市内で震度7の地震が発生した場合の栄区内の被害想定についてで、共に9割以上と高い割合となっている。



※ 以下、問5選択肢「知らなかった (この調査で初めて知った)」は、文章中「知らなかった」と表記

【けが・事故の危険性の認知度： 属性別】

1 栄区の14歳以下の子どもの救急搬送で件数が最も多いのは「0～4歳」の乳幼児である

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が6.3ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

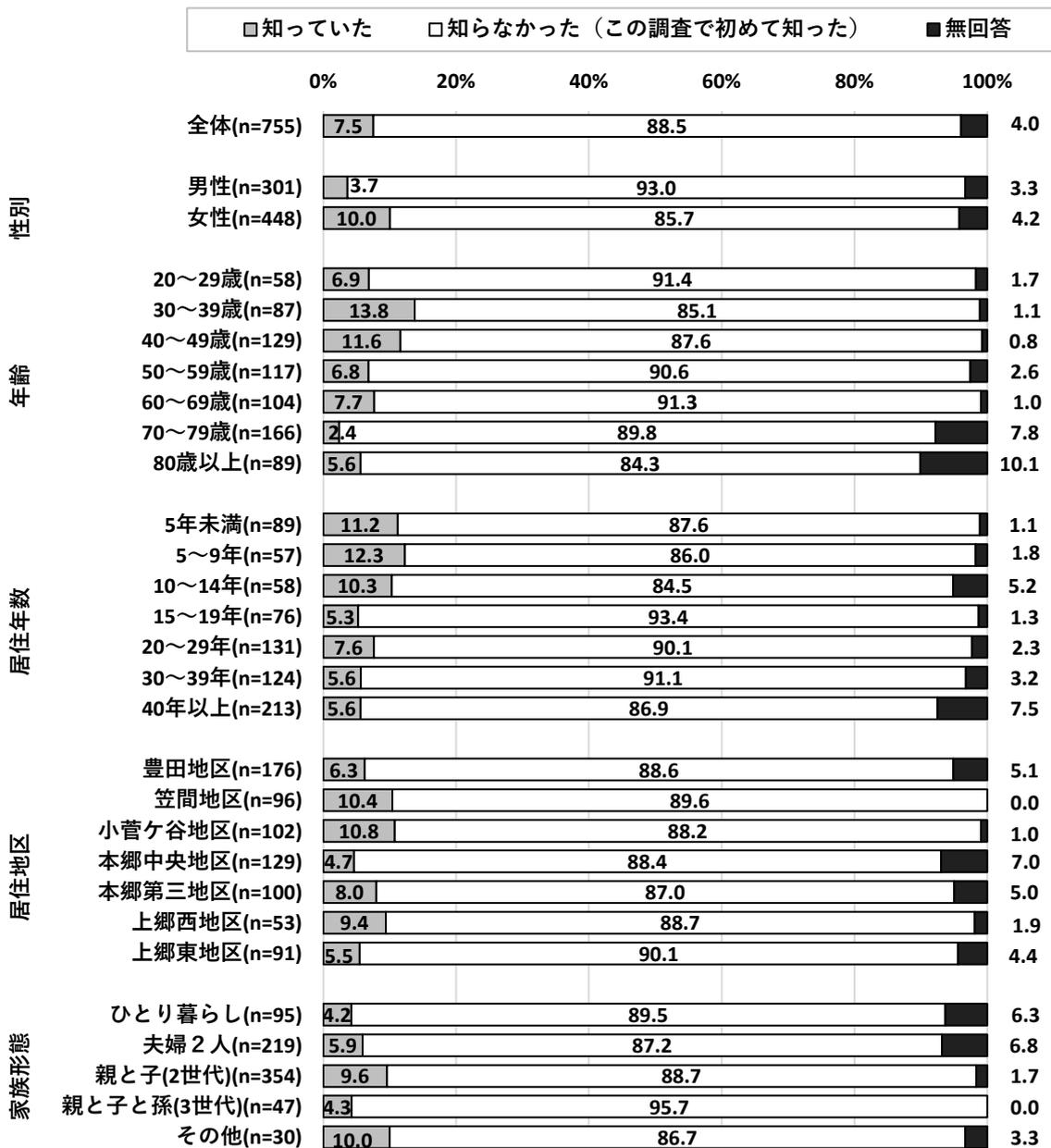
<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

1 栄区の14歳以下の子どもの救急搬送で件数が最も多いのは「0～4歳」の乳幼児



2 栄区の小学生・中学生の30%以上が1年間に「怖い人と出会った」と回答している

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「20～29歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

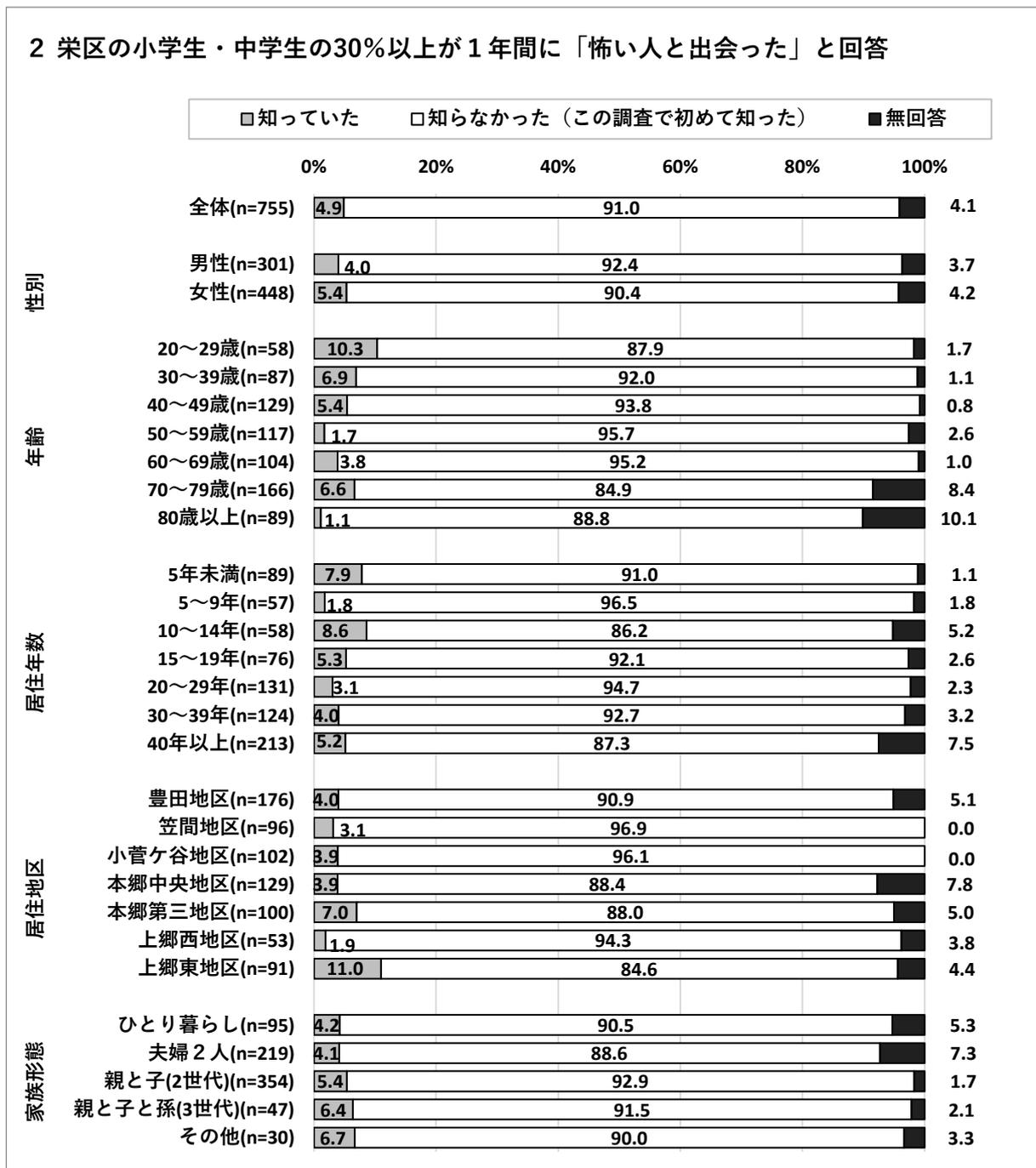
・「5～9年」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷東地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。



3 栄区の運動中のけが・事故で最も多いのは、「下肢」の「捻挫・肉ばなれ」である

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「40～49歳」「50～59歳」では「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

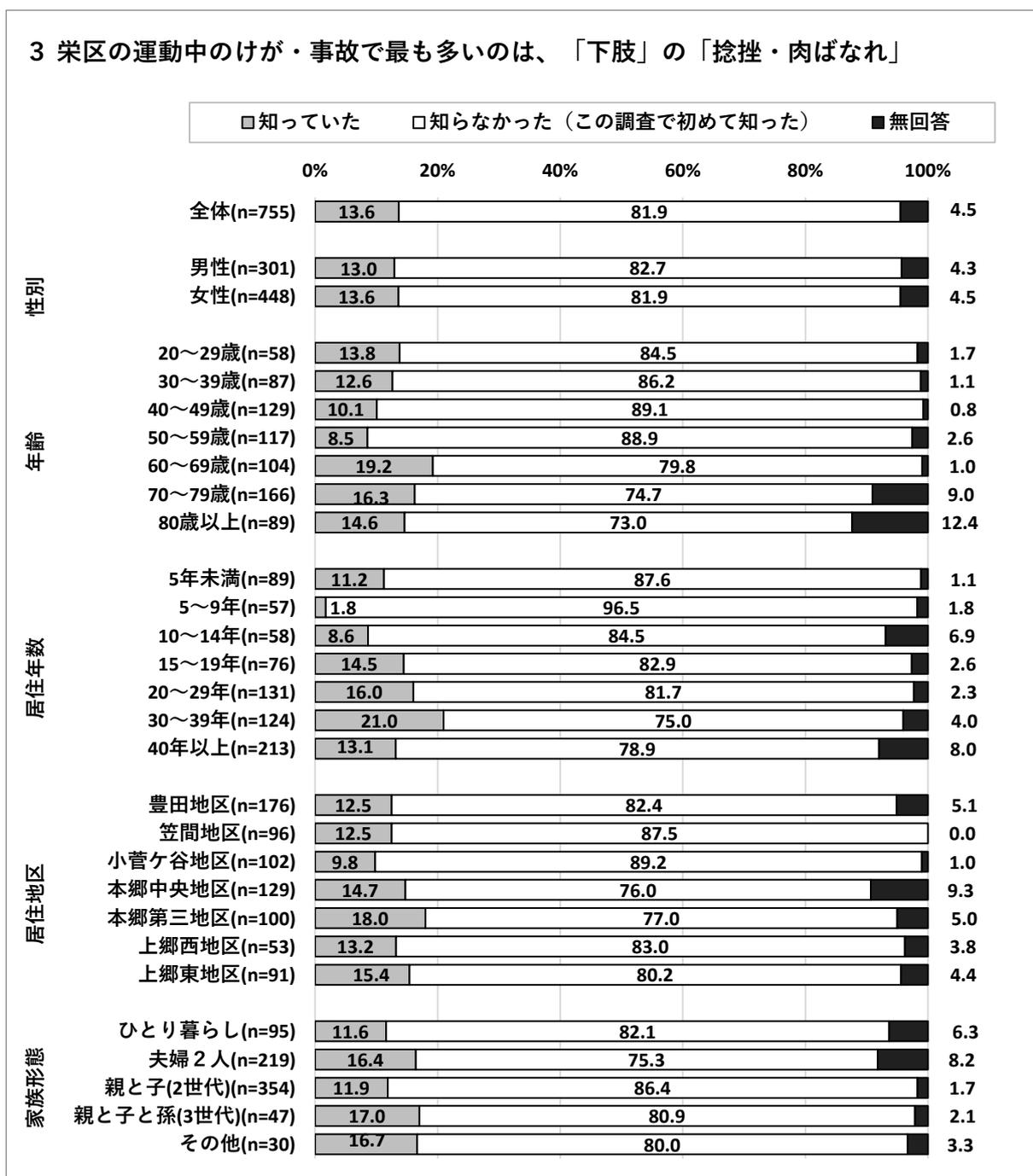
・「30～39年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「知らなかった」の割合は「5～9年」では10ポイント以上、「5年未満」では5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。



4 栄区の15歳以下の子どもの交通事故の中で最も多いのは、「歩行中(飛び出し)」の事故である

<性別>

・「知っていた」の割合は、男女別に差は見られない。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「30～39歳」「50～59歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

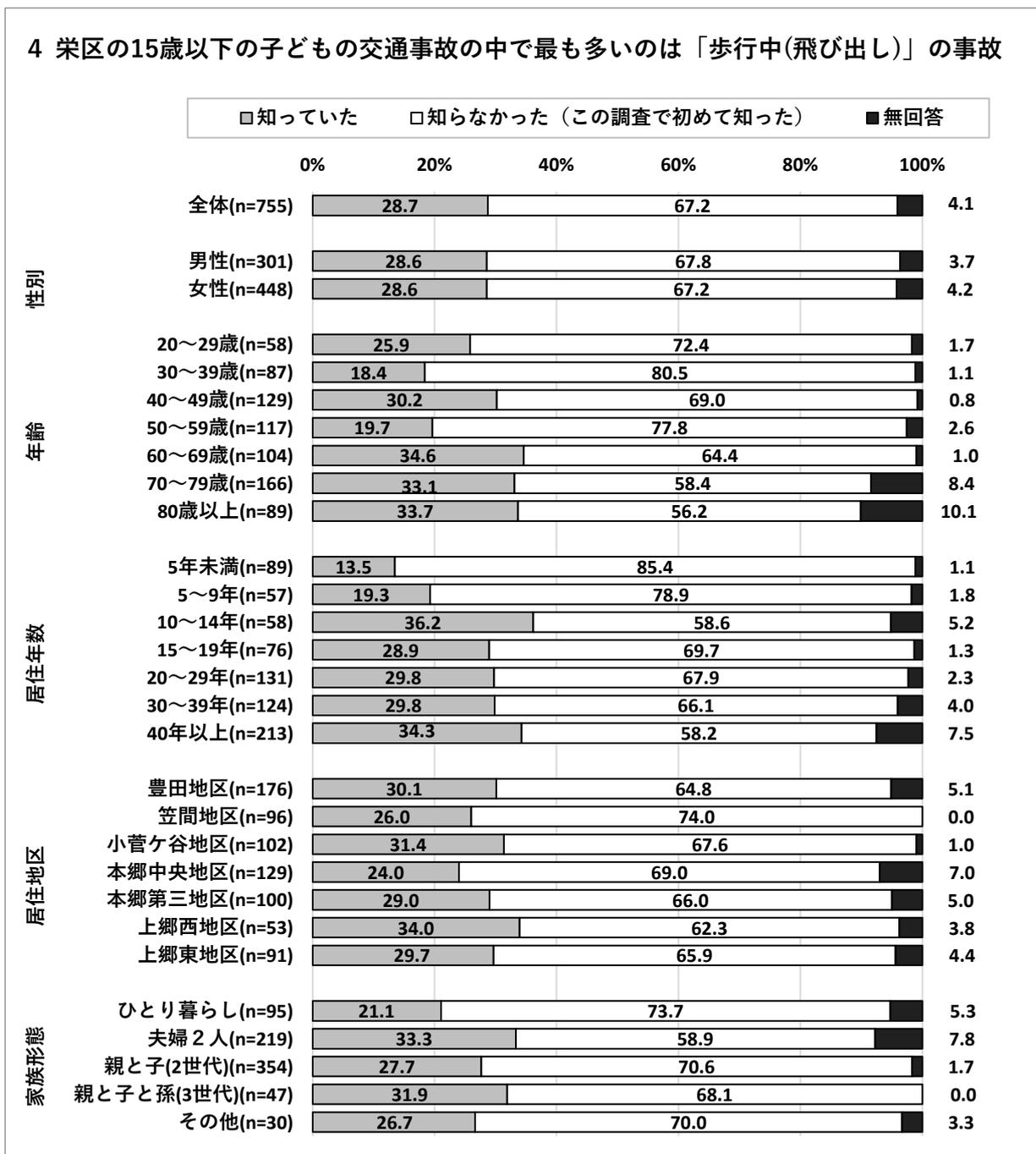
・「10～14年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」「5～9年」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



5 栄区にお住まいの高齢者を対象に交通安全教室を開催している

<性別>

・「知っていた」の割合は、「女性」より「男性」の方が4.2ポイント高い。

<年齢別>

・「80歳以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「30～39歳」「40～49歳」「50～59歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「20～29年」では、「知っている」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

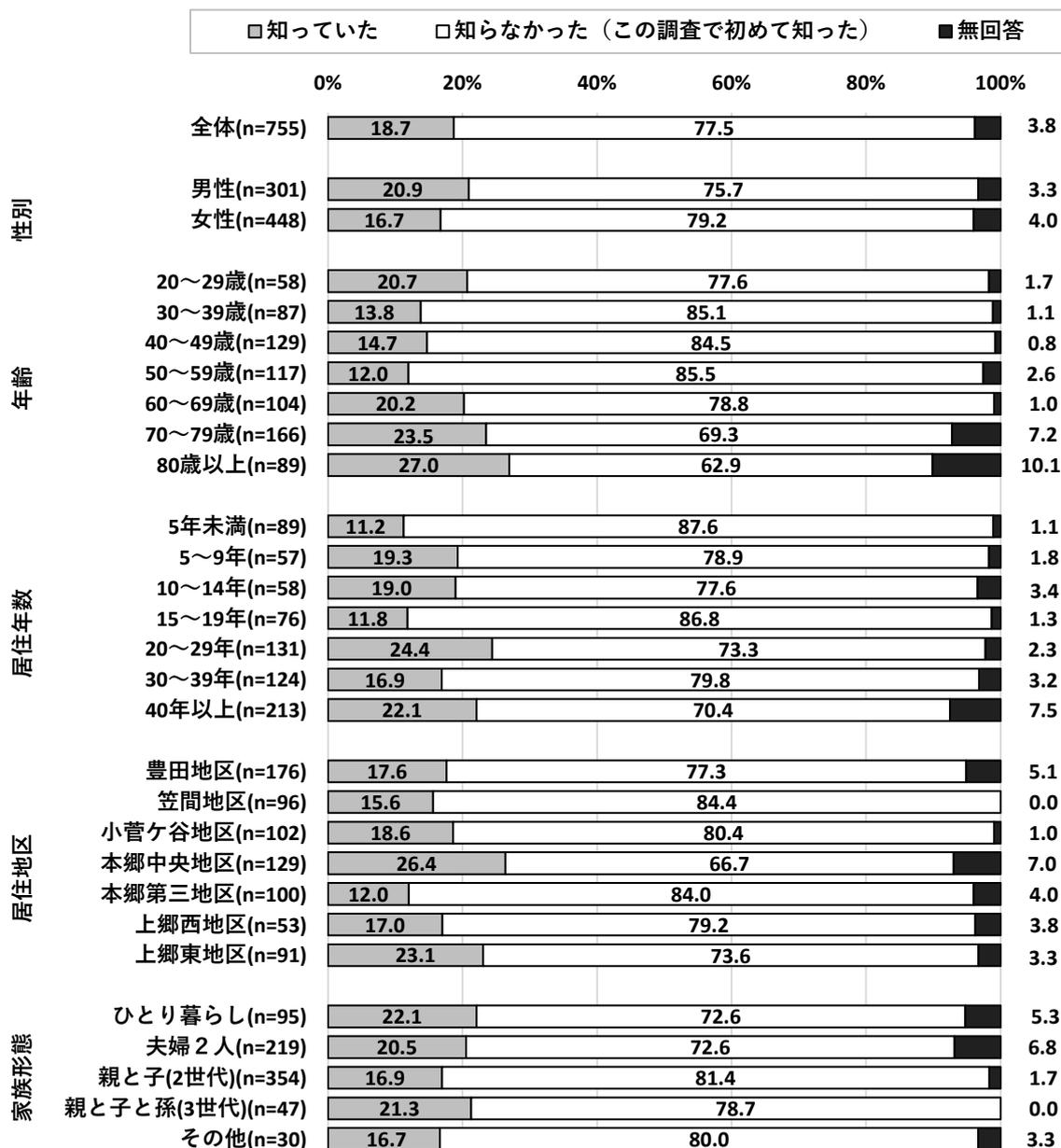
<居住地区別>

・「本郷中央地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」「本郷第三地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

5 栄区にお住まいの高齢者を対象に交通安全教室を開催



6 横浜市および栄区の児童虐待対応件数は年々増加傾向にある

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5～9年」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

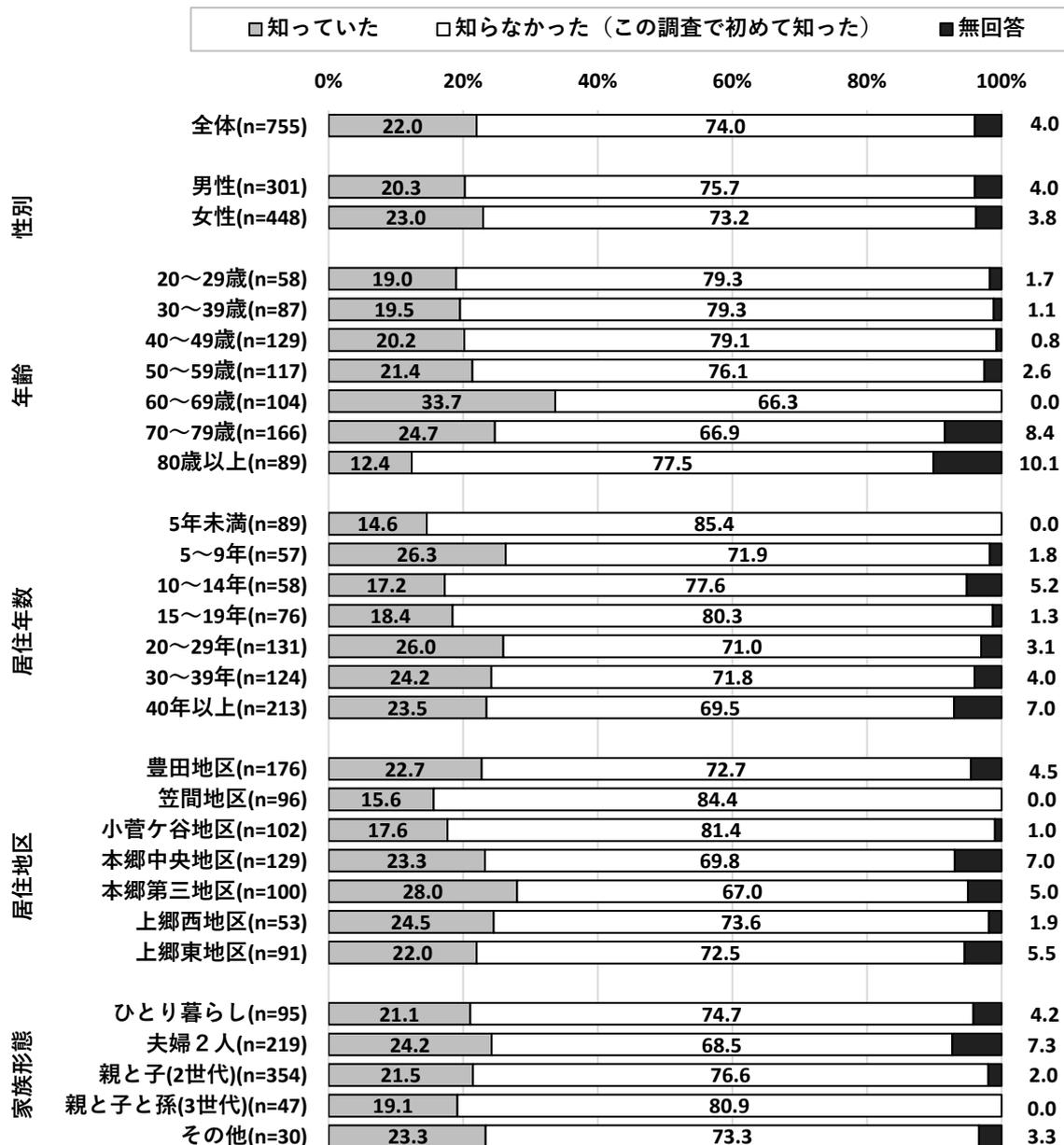
<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知らなかった」の割合が全体よりも5ポイント以上高い。

6 横浜市および栄区の児童虐待対応件数は年々増加傾向



7 横浜市では、はじめての子どもが生まれる前に赤ちゃんの世話をしたことがない人の割合は約7割である

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が4.2ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。



8 栄区の救急搬送の中で最も多い年代は「65歳以上の高齢者」である

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が6.3ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「20～29年」「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」「15～19年」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

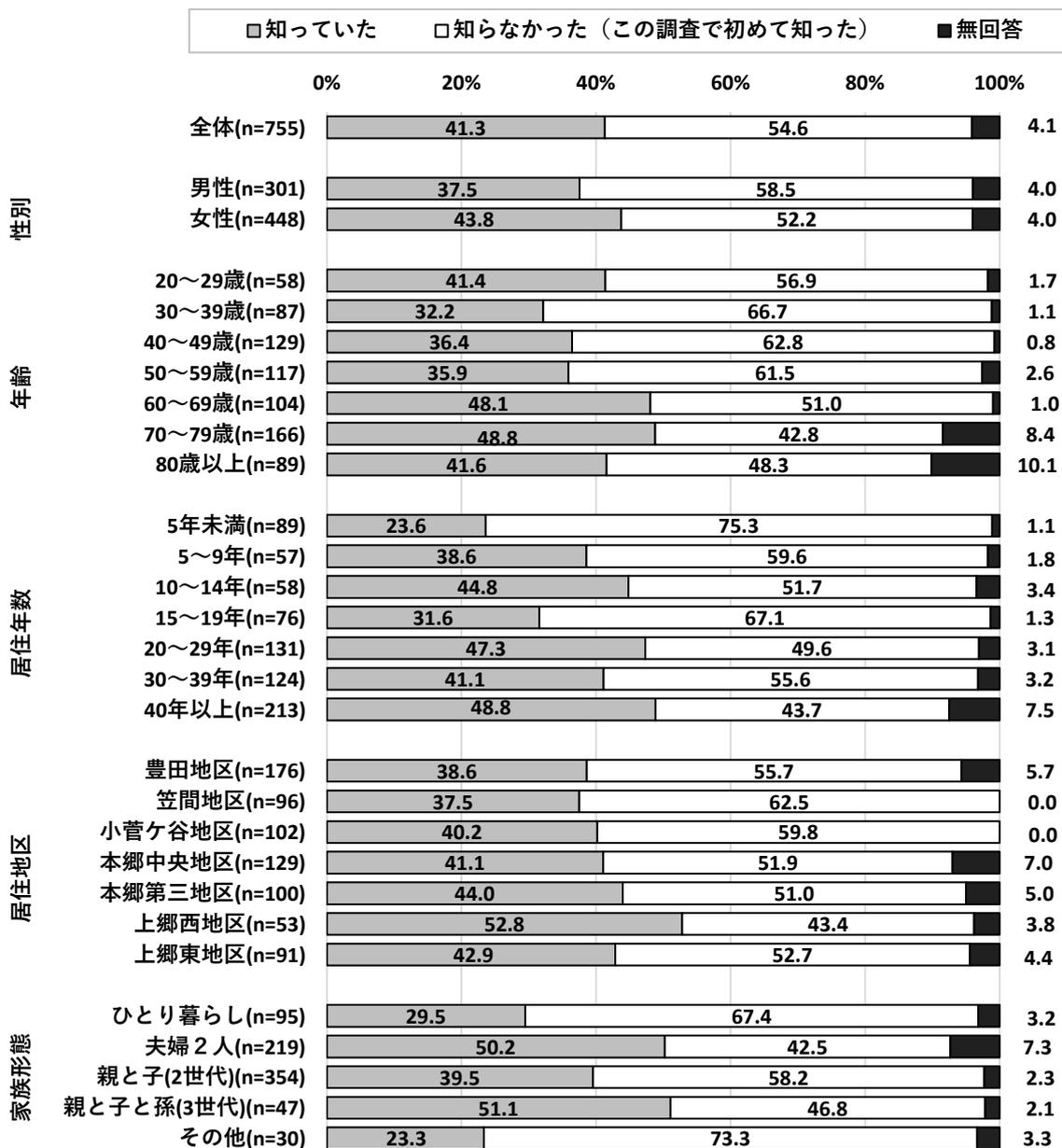
<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

8 栄区の救急搬送の中で最も多い年代は「65歳以上の高齢者」



9 栄区の65歳以上の高齢者のけがによる救急搬送件数のうち、最も多い原因は「転倒・転落」である

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が10.0ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」「80歳以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「20～29歳」「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

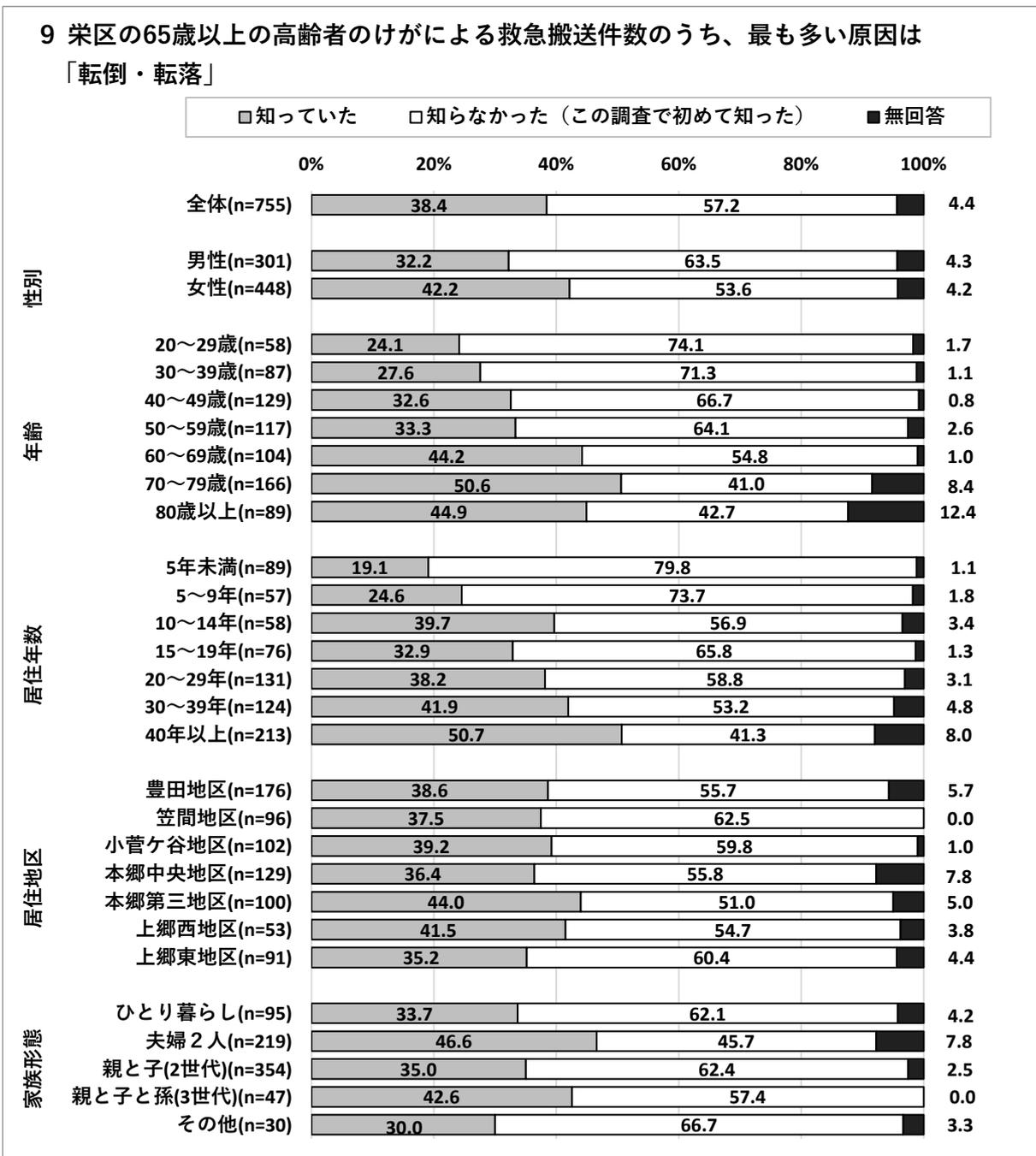
・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「5年未満」「5～9年」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「夫婦2人」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「親と子(2世代)」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



10 栄区の65歳以上の不慮の事故のうち死亡・重篤に占める割合が最も多いのは「溺死・溺水」である

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が5.1ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

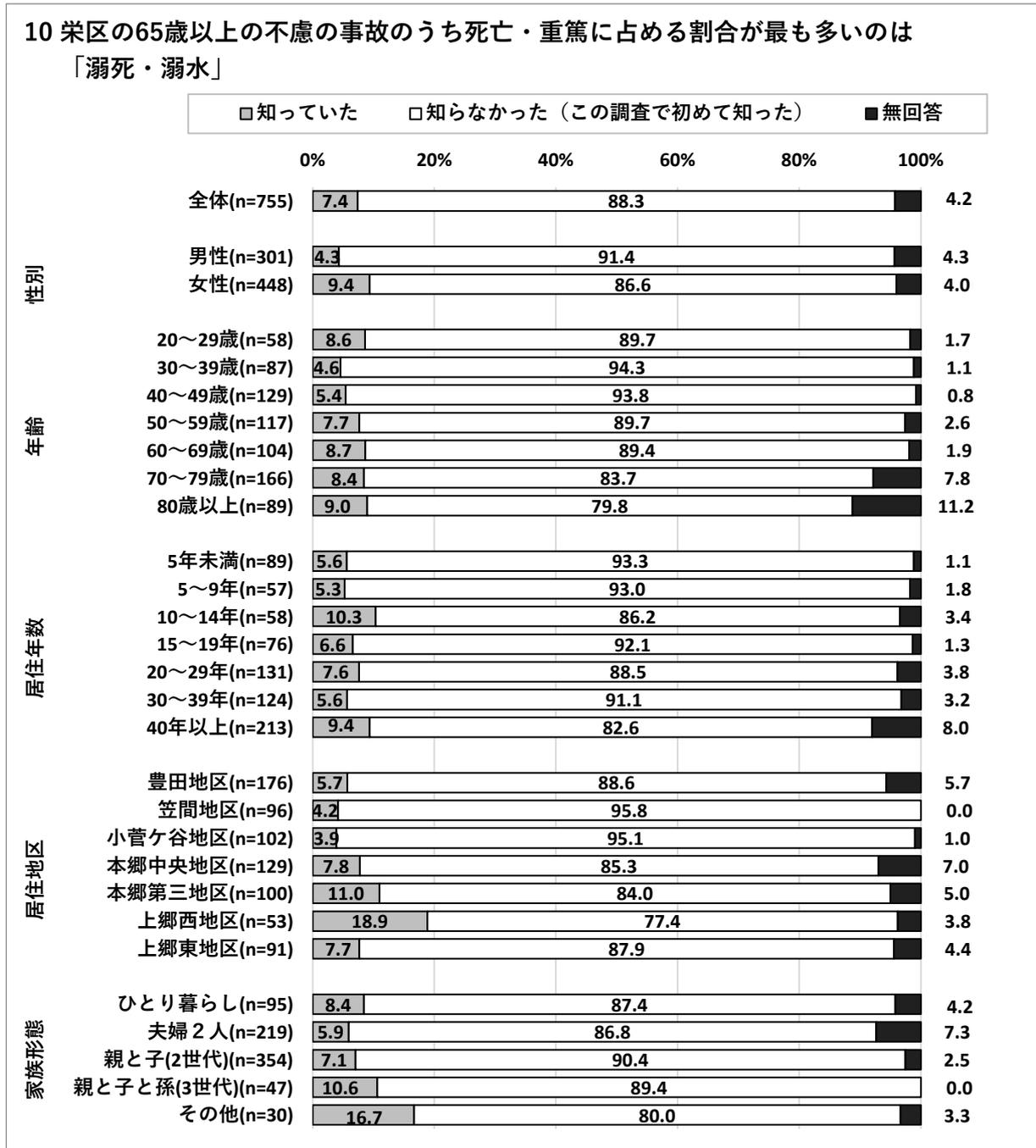
・居住年数別には、大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。



11 栄区の65歳以上の高齢者の溺死・溺水による救急搬送が最も多いのは、「12月～2月の冬場」である

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が14.1ポイント高い。

<年齢別>

・「50～59歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

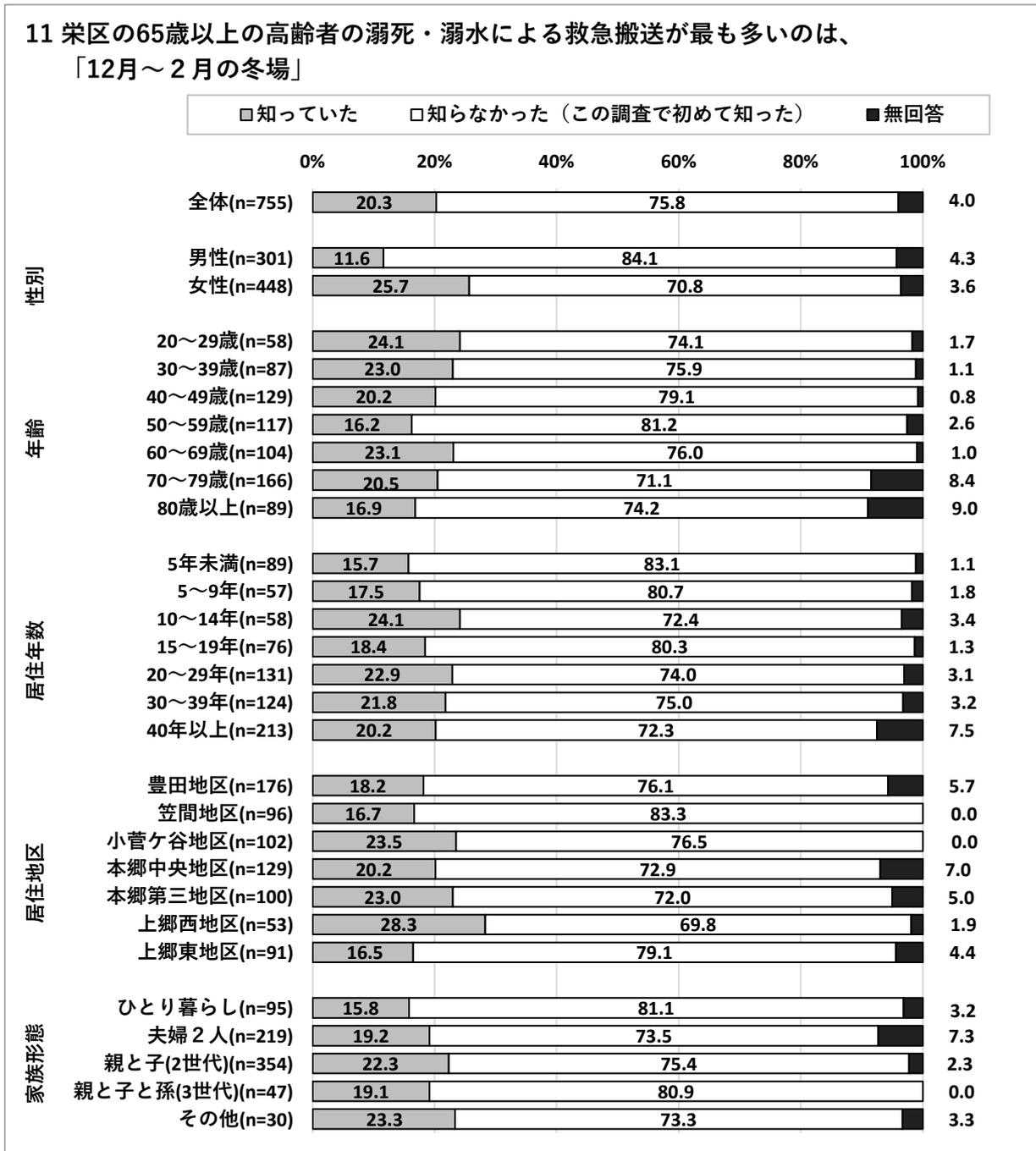
・「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「上郷西地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

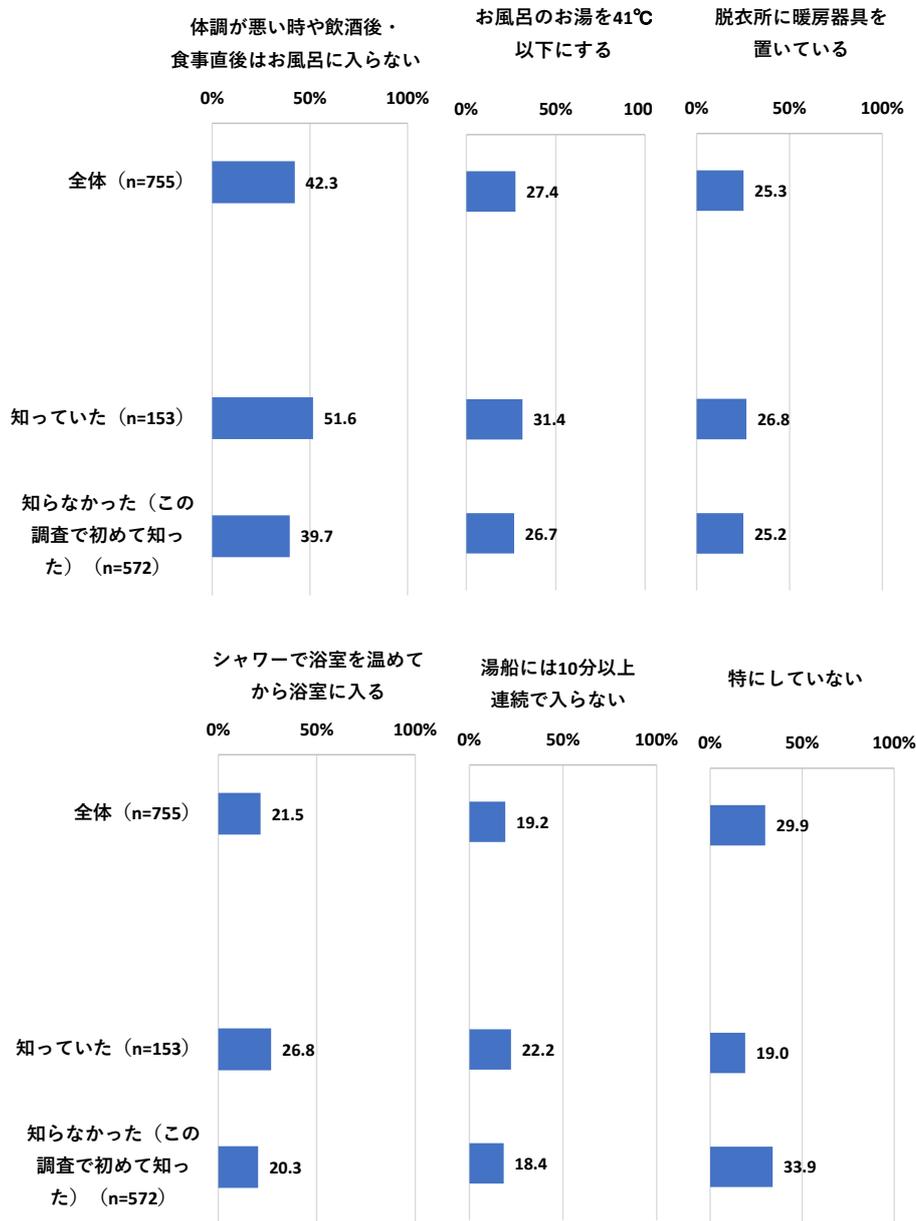
<家族形態別>

・「親と子と孫（3世代）」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



【けが・事故の危険性：(13) ヒートショック対策との関連】

・高齢者の溺死・溺水による救急搬送が最も多いことを「知っていた」方は「知らなかった」方よりヒートショック対策を行っている割合は高い。特に「体調が悪い時や飲食後・食事直後はお風呂に入らない」と答えた割合は11.9ポイント高い。また、「知らなかった」方の方が「知っていた」方より「ヒートショック」の対策を「特にしていない」と答えた割合が15ポイント高い。



12 横浜市は全国の都道府県庁所在地の中で震度6弱以上の大地震が発生する確率が2番目に高い

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「50～59歳」「60～69歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「20～29歳」「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

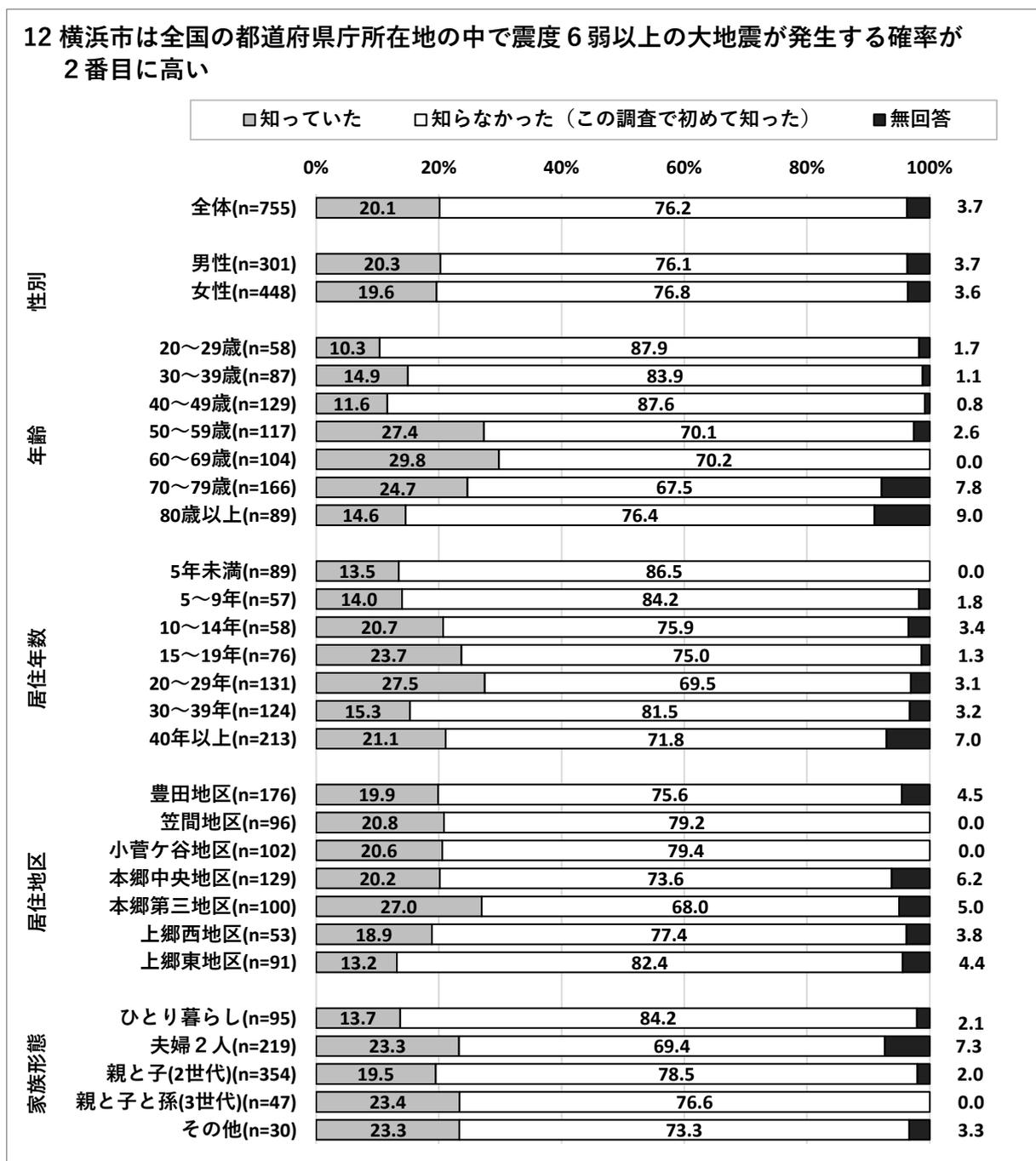
・「20～29年」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「上郷東地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

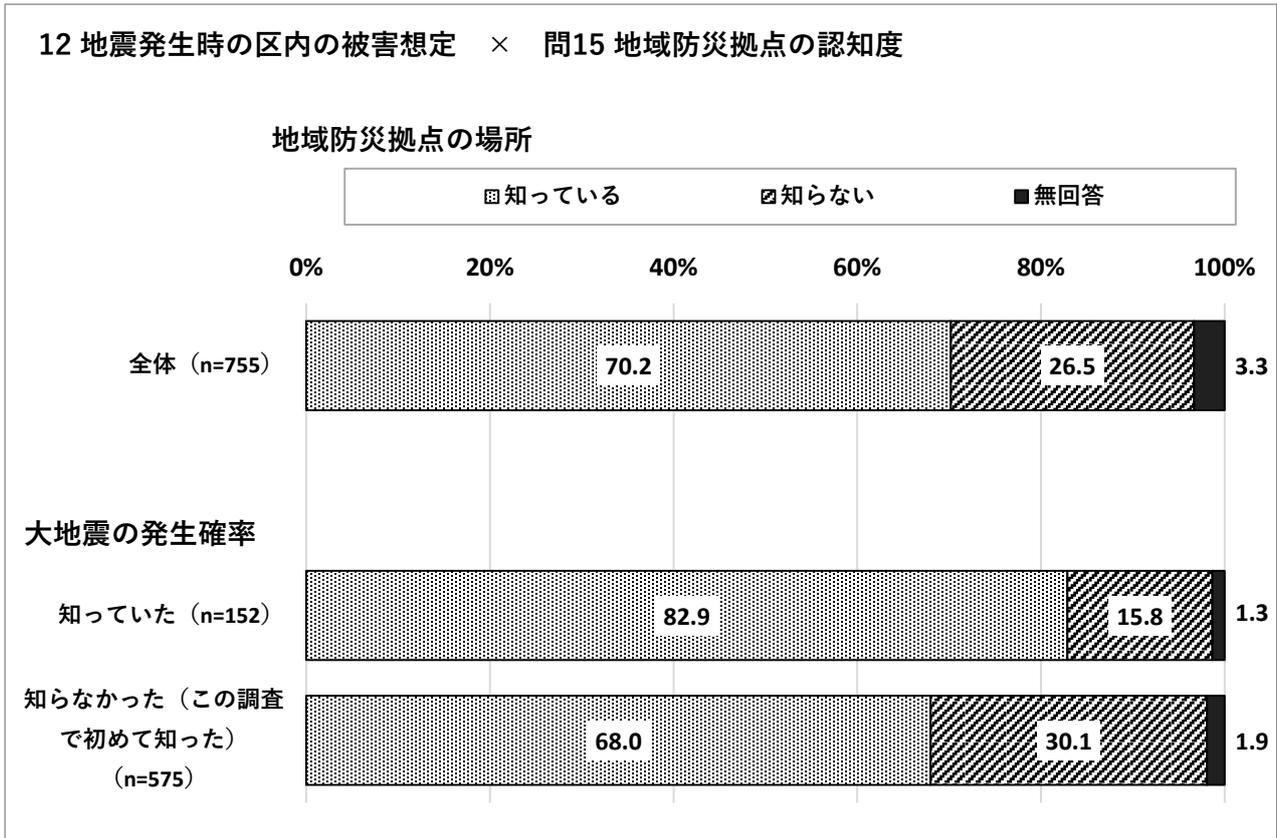
<家族形態別>

・「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。



【けが・事故の危険性：(15) 地域防災拠点の認知度との相関】

- ・大地震発生確率について「知っていた」方は「知らなかった」方より地域防災拠点の認知度が 14.9 ポイント高いが、「知っていた」「知らなかった」に関わらず地域防災拠点は約 7 割の区民に認知されている。



Ⅲ 集計分析結果 (5)けが・事故の危険性の認知度

13 市内で震度7の地震が発生した場合の栄区内の被害想定は死者43名、負傷者703名と大規模である

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・居住年数別には、大きな差は見られない。

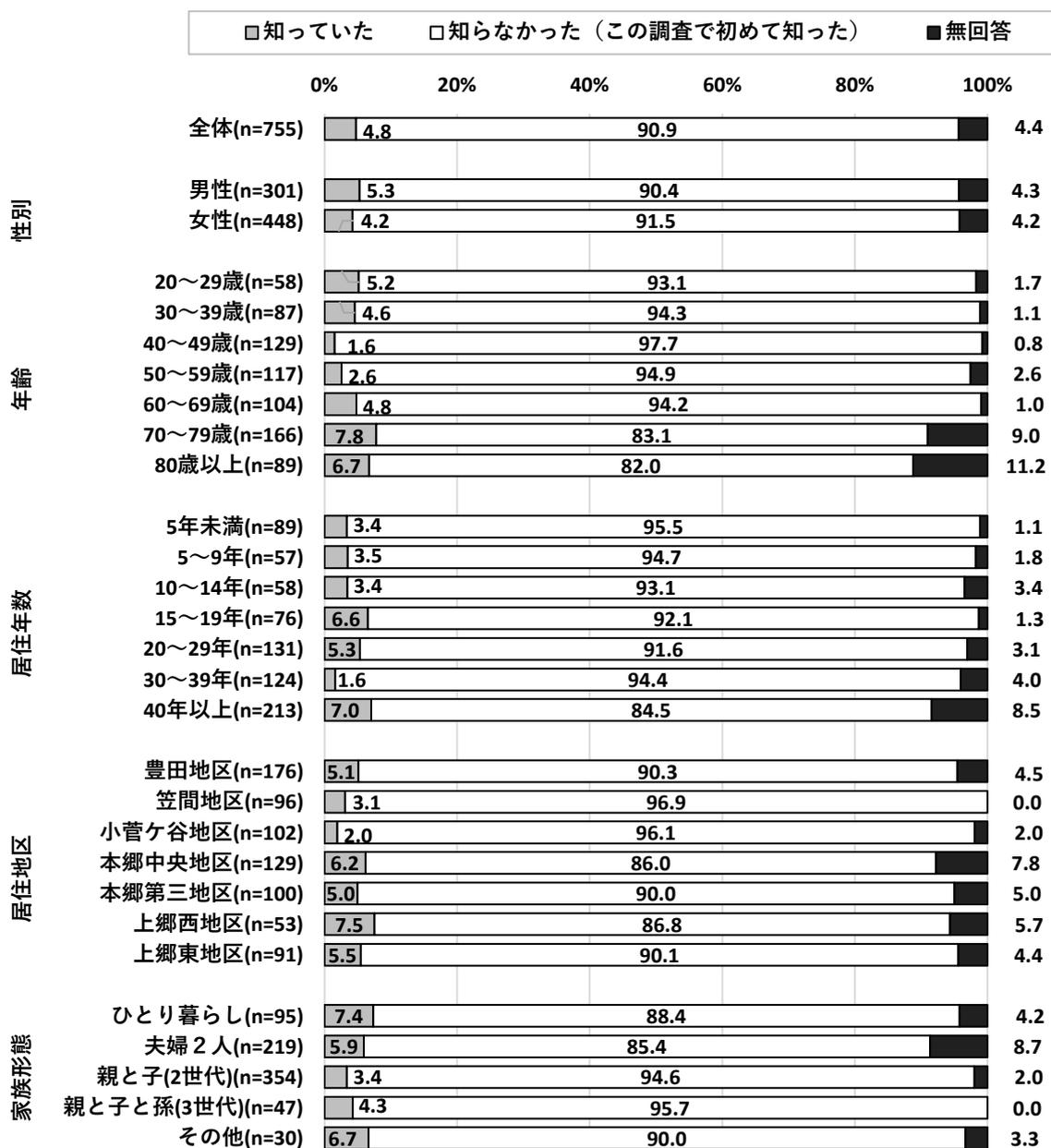
<居住地区別>

・「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

13 市内で震度7の地震が発生した場合の栄区内の被害想定は死者43名、負傷者703名と大規模



14 阪神・淡路大震災では、約7割の方が家具や家屋の倒壊によって亡くなっている

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が9.4ポイント高い。

<年齢別>

・「60～69歳」「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「20～29歳」「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「15～19年」「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より25ポイント以上高い。

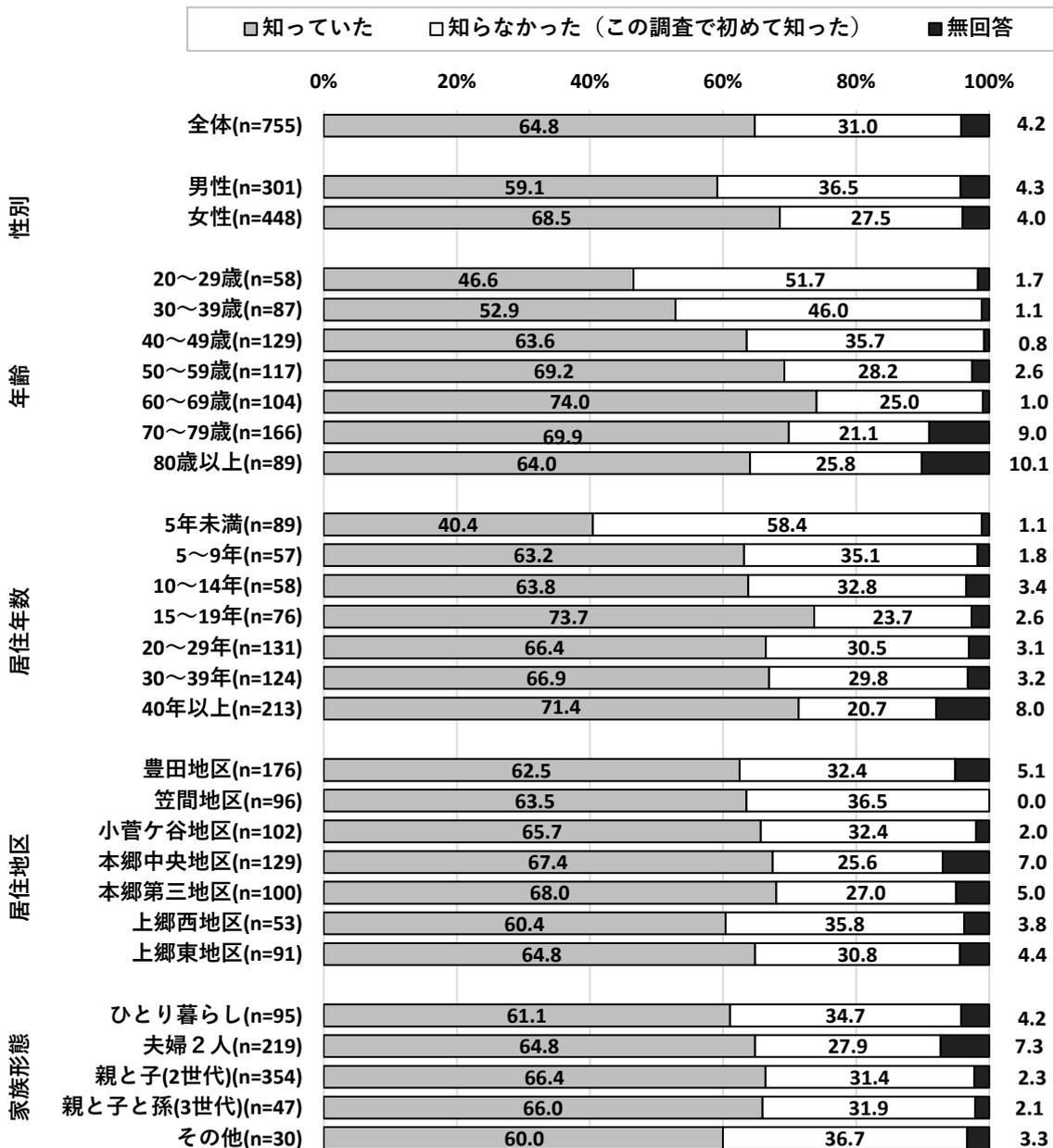
<居住地区別>

・「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

14 阪神・淡路大震災では、約7割の方が家具や家屋の倒壊によって亡くなっている



15 栄区の自殺者の自殺原因で最も多いのは、「健康問題」によるものである

<性別>

・性別には、大きな差はみられない。

<年齢別>

・「40～49歳」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「15～19年」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

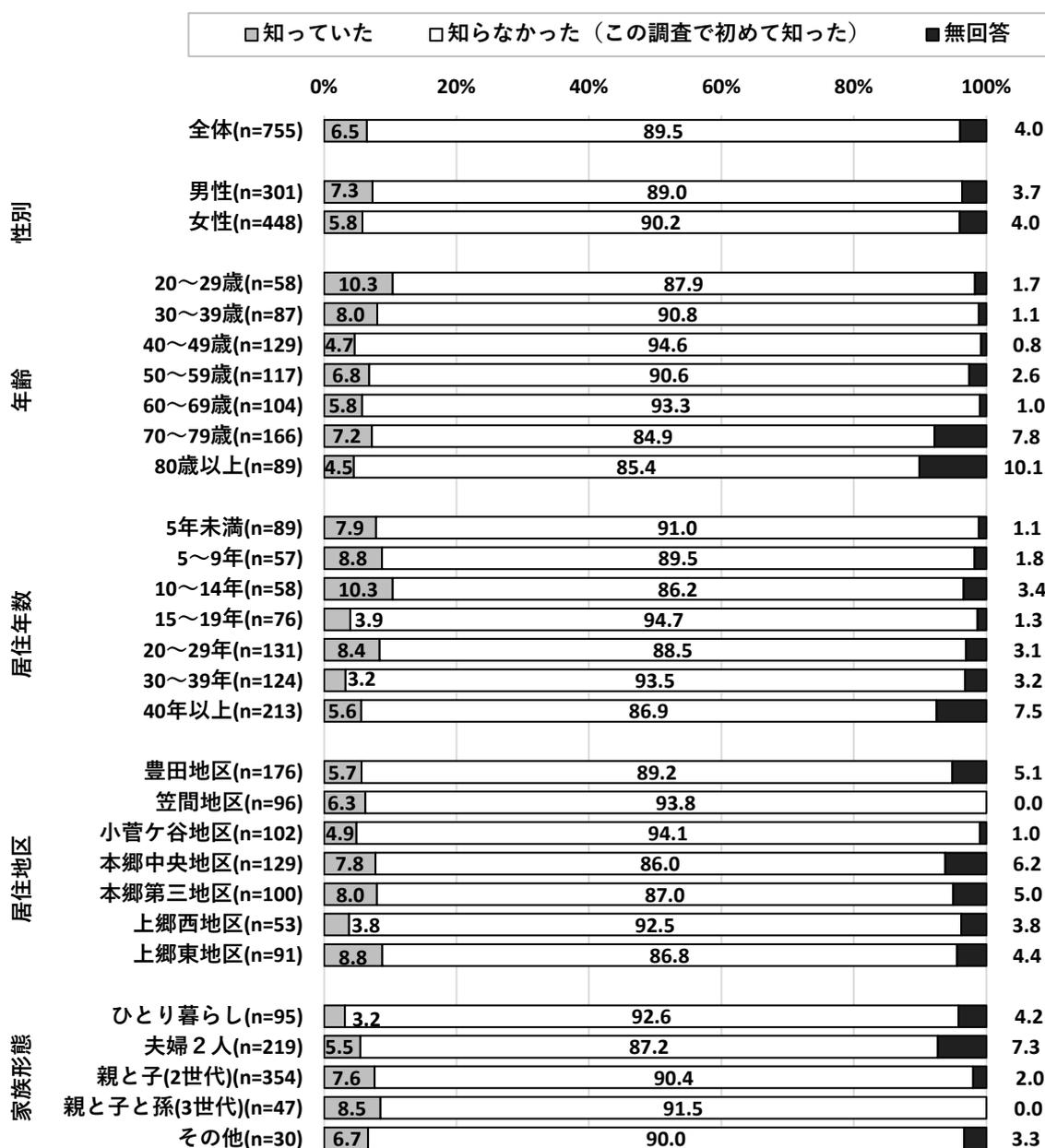
<居住地区別>

・居住地区別には、大きな差は見られない。

<家族形態別>

・家族形態別には、大きな差は見られない。

15 栄区の自殺者の自殺原因で最も多いのは、「健康問題」によるもの



16 栄区の犯罪における振り込め詐欺の件数割合は年々増加している

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が10.6ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「20～29歳」「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より30ポイント以上高い。

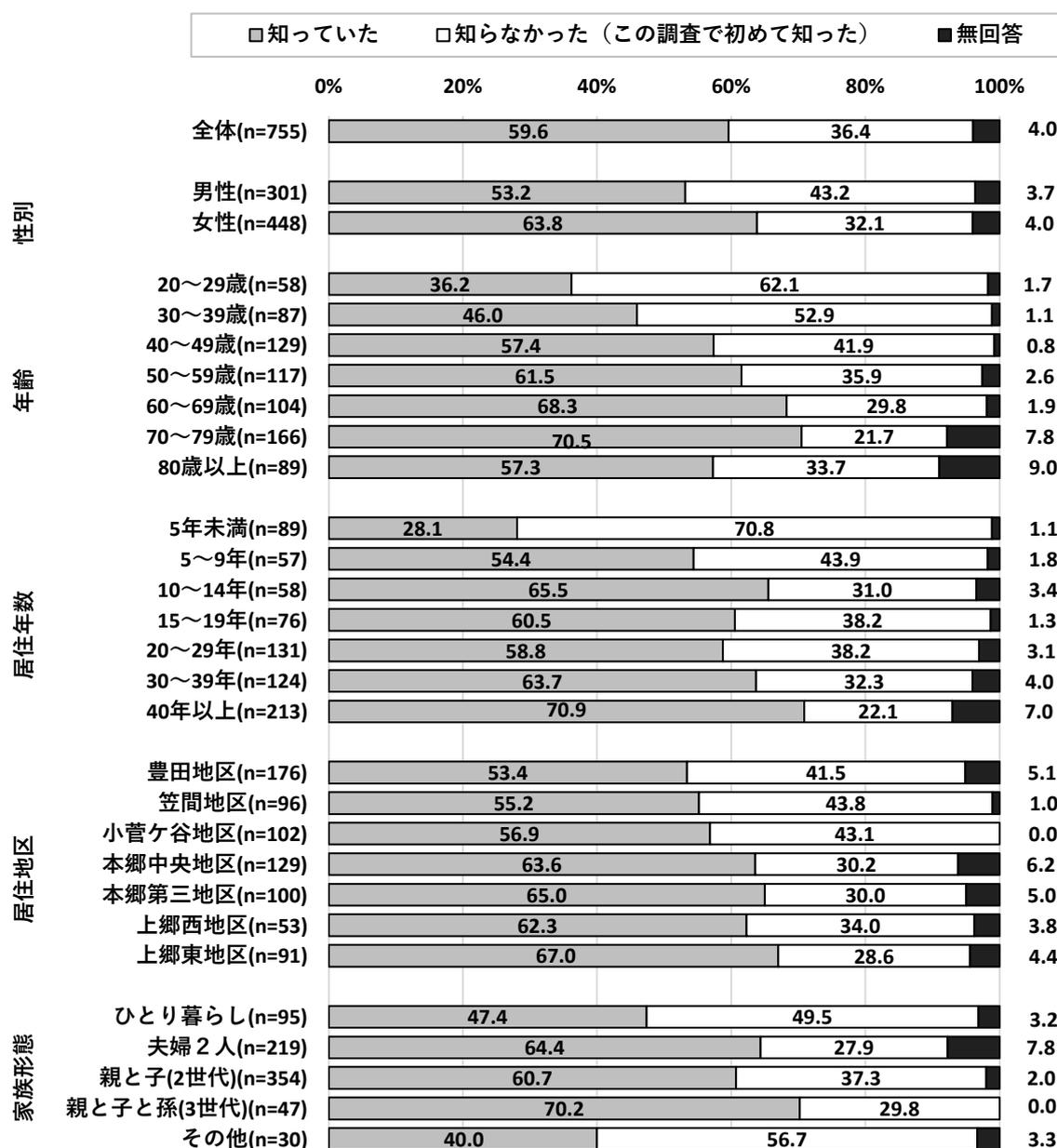
<居住地区別>

・「本郷第三地区」「上郷東地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「豊田地区」「笠間地区」「小菅ヶ谷地区」では、「知らなかった」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

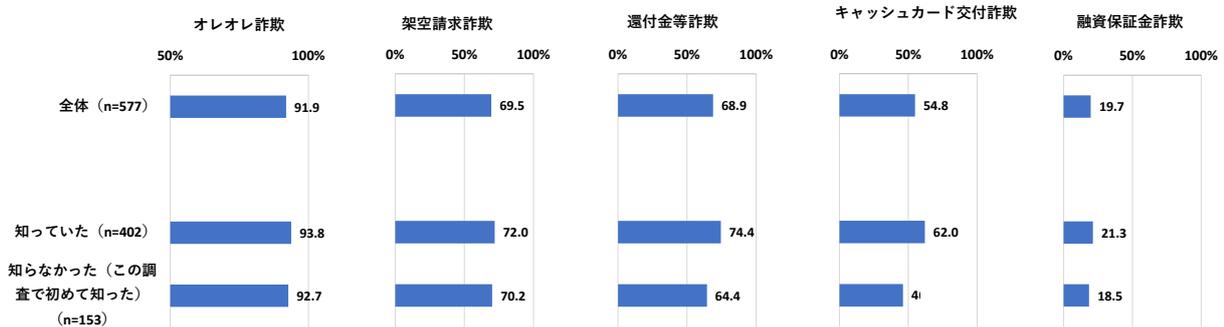
16 栄区の犯罪における振り込め詐欺の件数割合は年々増加



Ⅲ 集計分析結果 (5) けが・事故の危険性の認知度

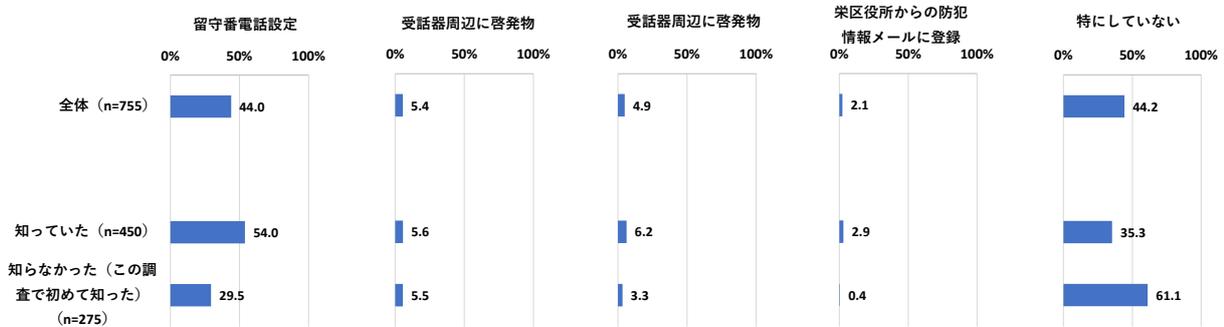
【けが・事故の危険性：(19) 知っている振り込め詐欺との相関】

- 区内の犯罪件数における振り込め詐欺の割合が増えていることを「知らなかった」方より「知っていた」方が、振り込め詐欺対策で「キャッシュカード詐欺」「還付金等詐欺」を知っている割合が10ポイント以上高い。



【けが・事故の危険性：(20) 行っている振り込め詐欺対策との相関】

- 区内の犯罪件数における振り込め詐欺の割合が増えていることを「知らなかった」方より「知っていた」方が、振り込め詐欺対策で「留守番電話設定」を行っている割合が24.5ポイント高い。



17 栄区の振り込め詐欺の被害者層は、「60歳代以上」が9割以上を占める

<性別>

・「知っていた」の割合は、「男性」より「女性」の方が11.6ポイント高い。

<年齢別>

・「70～79歳」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「20～29歳」「30～39歳」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「40年以上」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「5年未満」では、「知らなかった」の割合が全体より30ポイント以上高い。

<居住地区別>

・「小菅ヶ谷地区」では、「知っていた」の割合が全体より5ポイント以上高く、「笠間地区」では、「知らなかった」の割合が全体より30ポイント以上高い。

<家族形態別>

・「親と子と孫(3世代)」では、「知っていた」の割合が全体より10ポイント以上高く、「ひとり暮らし」では、「知らなかった」の割合が全体より10ポイント以上高い。

17 栄区の振り込め詐欺の被害者層は、「60歳代以上」が9割以上を占める

